

野菜生産に活用へ

くず1日200キロ発酵

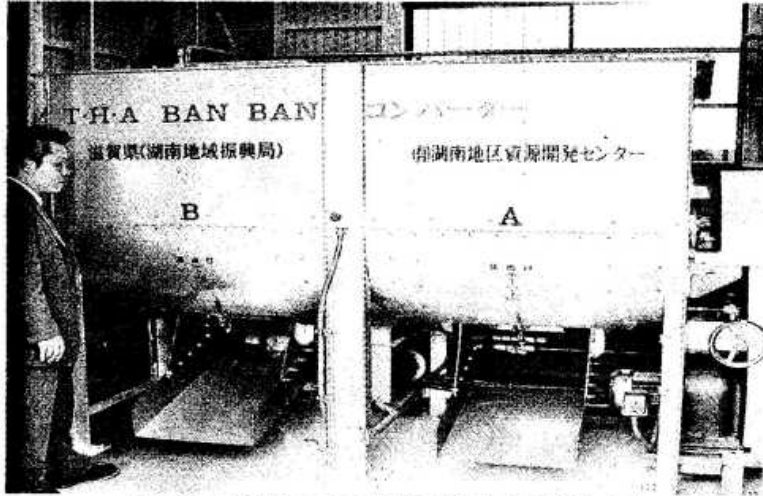
県と草津の処理会社

草津市若竹町の廃棄物処理会社「湖南地区資源開発センター」（権田五雄社長）は二十二日から、同市北山田町の処理施設で、生ごみのたい肥化を始めた。県の指導、助言を受けながら、同市内の店舗から出た生ごみをたい肥に変え、地元農家で野菜生産に活用する。

同社は、処理施設に生ごみの発酵装置（高さ一・八メートル、幅三メートル）新たに設置し、市内の百貨店と食料品店の二店舗から回収した野菜くずなど一日当たり約二百キロを発酵させ、三カ月かけて百八十キロのたい肥にする。県湖南地域振興局がたい肥化などの指導に当たるとも、

たい肥は、地元の園芸組合を通じて地元農家に無料で提供され、野菜づくりなどに活用する。野菜はごみを排出した両店で販売し、地域内でのリサイクルをめざす。

域内リサイクルへ生ごみ たい肥化



生ごみの地域内でのリサイクルを目指して設けられた発酵装置（草津市）

地域総合